



災害時の避難としての可能性を探る

車中泊講習会に参加しました

昨年12月の第4回定例会の一般質問で、私は災害時の車中泊避難を取り上げました。

車中泊避難について、国はエコノミークラス症候群が発生する危険性があるとして推奨していません。一方、「避難所は人が多く落ち着かない」、「子どもや高齢者、ペット等と一緒に避難所では気を遣う」と車中泊避難を選択される方もいます。

エコノミークラス症候群を予防し、かつ、快適に車中泊避難できる方法の研究や実験を検討しても良いのではないかと提案しました。

【原田たかし議会報告「2024年冬号」より抜粋】

私の会報を読まれた方から、「車中泊の講習会を開催しますので、良かったら参加しませんか？車中泊避難の参考になると思えますよ。」とのお誘いがあり参加してきました。

お誘いの連絡をくれたのは、大分市で美術教室を運営されている藤原了児さん。



大分市カヌー協会の事務局長としてカヌー講習会の運営もされています。併せて車中泊のキャンプも楽しまれており、今回の講習会を企画されたそうです。



1月14日(日)に会場へ。さっそく車中泊に必要なグッズを教えてくださいました。一番大事な物は、車に適したサイズのマットレスや寝具、それに電気毛布などの家庭用電化製品を使うための電源だそうです。

ACコンセントが付いている電気自動車やハイブリットカーもありますが、車中泊の電源は、充電式のポータブル電源、もしくは車のバッテリーから家庭用ACコンセントに変換するカーインバーターとなります。カーインバーターはシガーソケットに接続するタイプが簡単で便利です。

電源があれば、携帯の充電もできますし、コンパクトなテレビやラジオで情報を得ることもできます。



私の充電式のポータブル電源(左)とカーインバーター(右)

また、簡易トイレや防犯のためのカーテンや目隠しの用意、さらに結露を防ぐため車の窓はほんの少し開けておくといいと教えていただきました。



なお、**車中泊の際は、エコノミークラス症候群対策として、軽い体操やストレッチ運動とこまめな水分補給**を忘れてはいけません。

また、エンジンのかけっぱなしによる一酸化炭素中毒にも気をつけなければなりません。積雪の多い地域では、雪によってマフラーがふさがれる危険性もあります。

車中泊に関するガイドブックが出版社や自動車メーカーから出ていますから、それらも参考になるかと思えます。

そうした説明を聞いてる中、参加されていた方から「発達障がいなど障がいのある子どもの場合、学校や公民館などの避難所では不安を抱えたり迷惑をかけそうなため、災害時は車中泊避難を考えざるを得ません。ぜひ、県でも車中泊避難の支援にも取り組んでほしいです。」という話をお聞きしました。

元旦に石川県能登半島で最大震度7の揺れを観測する地震が起きました。亡くなられた方々に哀悼の意を表するとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

この地震では、多くの方々が車中泊避難をされている様子が報道されました。現在、国や県は車中泊避難を推奨していませんが、車中泊避難をされる方々も含め誰もが安心して避難できる環境整備が必要だと感じました。

今回、車中泊についてたくさん教えてくれた藤原了児さん、徳永泰夫さん、中元洋子さん、ありがとうございました！



後日、原田はポータブル電源やマットレス、

電気毛布などをそろえ、家の駐車場で車中泊を体験。

車の中はこのような感じになりました。

